

モーリシャス豆知識・小話 第23号

2019年3月
在モーリシャス日本国大使館

(1) 訪日モーリシャス人留学生の変化

最近、ネットニュースで、欧米諸国に留学した中国人は本国に戻っても中国人だが、日本留学した中国人は人格が変わる、思いやりや謙虚さなどが身につく元に戻ることはない、これは日本文化の感化力であり、中国から日本に伝えた文化が中国人の中で呼び覚まされた結果だとの記事(おおざっぱな概要ですみません)を読みました。また日本に留学した欧米人学生も程度の差こそあれそうなることが多いそうです。

うーん、確かにそうかなと思います。先般、モーリシャスから日本に行っている国費留学生が一時帰国して当館に挨拶に来たのですが、対応した大使に恐縮しつつ長身の体を曲げて挨拶しながら持参した菓子折を差し出したその仕草はもはや日本人そのもの！彼は日本滞在が2年を越えたところで、聞くと留学先の京都の生活にすっかり馴染んでいる様子。彼は昔英国など他の国にも留学経験があるそうですが、日本での滞在は、これまでに経験したことがないくらい素晴らしいものだと言っており日本びいきになっていました。

今後は是非二国間の学術交流の橋渡しをしたいと、力強く将来の抱負を語ってくれた日本人化したモーリシャス人留学生を見ていると、留学生選考のための業務の苦労も吹き飛ばす思いがしてとても嬉しく感じた次第です。

(2) モーリシャスは舞の海！

以前大相撲に、舞の海という小兵ながら多彩な技を駆使して大型力士を相手に敢闘していたお相撲サンがいました。技のデパートという異名をとるくらいでしたが、それは確かな観察力と卓越した相撲理論で成り立っていたのだと、引退して解説者になったこの人の話を聞いて(まるで野球界の野村監督並みです)あらためて感心しました。

小国モーリシャスも、国際社会という同じ土俵で他の国と互していくのは大変なことでしょう。彼らのキャッチフレーズであるアフリカへのゲートウェー、オフショア取引企業への優遇、二重課税防止条約の活用などは、モーリシャスが世界で競争していく上での多彩な技であり、それらを駆使する姿はまさに舞の海。

しかし先般、その二重課税防止条約に対しケニアの裁判所が憲法違反との判断を下したとの報道がありました。EUなどにとってもモーリシャスは依然としてタックスヘイブンに関してグレーな国として位置づけられているようです。モーリシャスに言わせると、資源のない小国がいわゆる普通の国々と同じ土俵でまともに戦っては勝ち目がない、それはかえって不公平ではないか、といったところでしょう。

モーリシャスには、先般、チャゴス諸島領有権問題で説得力に富んだ理論立てと用意周到な戦術を見せたように、インド洋・アフリカ諸国の中の舞の海として、グローバルなビジネスセンターとしての輝きを維持するための知恵を絞って引き続き頑張ってもらいたい、と個人的には応援したい気持ちです。